



都道府県立図書館サミット2022 11月27日（日）

セッション # 3「都道府県立図書館と基礎自治体：都道府県立図書館の役割」  
話題提供

# 県立図書館は地域情報資源のプラットフォームになれるか - 信州をケーススタディとして



県立長野図書館 森 いづみ

※「プラットフォーム」は和製英語で、インターネット上で企業や個人に対してサービスやシステムを提供、または運営する事業者を意味する。  
IT用語では利用者と提供者をつなぐ基盤（ビジネスの場）を「プラットフォーム」と呼ぶため、プラットフォームの提供者はプラットフォームと呼ばれるようになった。  
デジタルトランスフォーメーションチャンネルより <<https://www.digital-transformation-real.com/blog/what-does-platformer-mean1>>

# コロナ禍で考えたこと・実践したこと（図書館という社会的機能の再確認）

## ● 休館→部分開館・サービス再開を進めながら考え、実践したこと

### ✓ コロナ禍（1回目の緊急事態宣言下）における休館は大きなショック

- もともと充分だったのか。元に戻すのではなく、発想の転換が必要

全国公共図書館休館率：約92%  
 長野県内公共図書館休館率：約70%  
 相互貸借実施率：50%  
 県立長野図書館貸出数：5%  
 (95%減)

### ✓ 既にあるものを最大限生かし、足りないものを補う

- 出来ることは、速やかに。出来ないとすれば、代替手段はないか
- 何が足りないのか、どうすればできるのか、誰がやるのが一番いいのか。知恵を出し合う

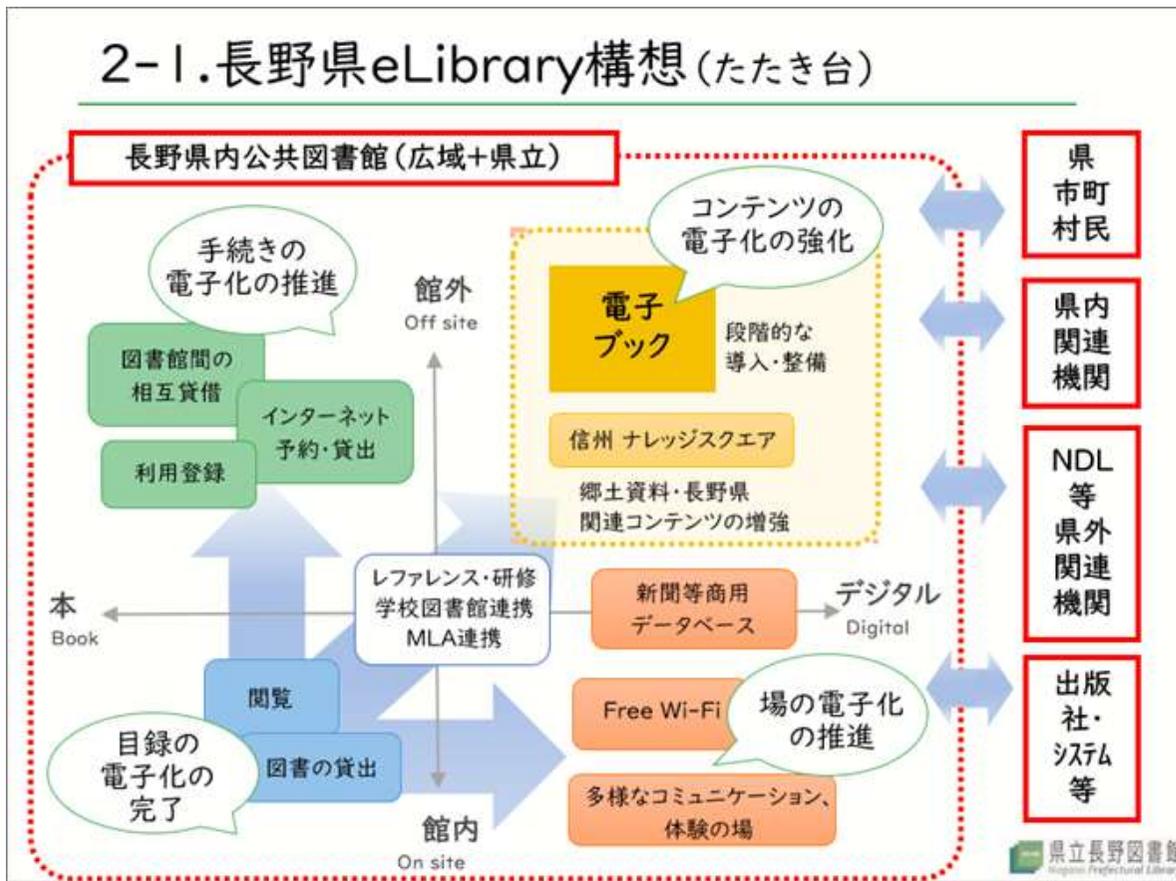
### ✓ 短期的方策（社会へのメッセージ発出＋図書館に来なくてもできること）

- メッセージを出し続ける（#図書館は動き続ける、saveMLAK、信州知の連携フォーラム）
- オンラインでできることについての情報発信、コロナ禍におけるサービスレベルの見通し
- 本の貸出の代替：お取り寄せサービス（図書館再開館後も細々と継続）
- オンライン商用データベースの遠隔利用交渉（17DB中1DBのみ職員の遠隔利用を許諾）
- 電子申請による利用登録の開始（県による「ながの電子申請サービス」を活用）
- メールフォームによるレファレンス（積極的に活用）
- イベントのオンライン化→ハイブリッド化

### ✓ 中期的・長期的な方向性を見える化して共有する（まずは館内→県内公共図書館・関連機関）

# 長野県eLibrary構想（計画）を作り、信州版図書館DXと呼んでみた

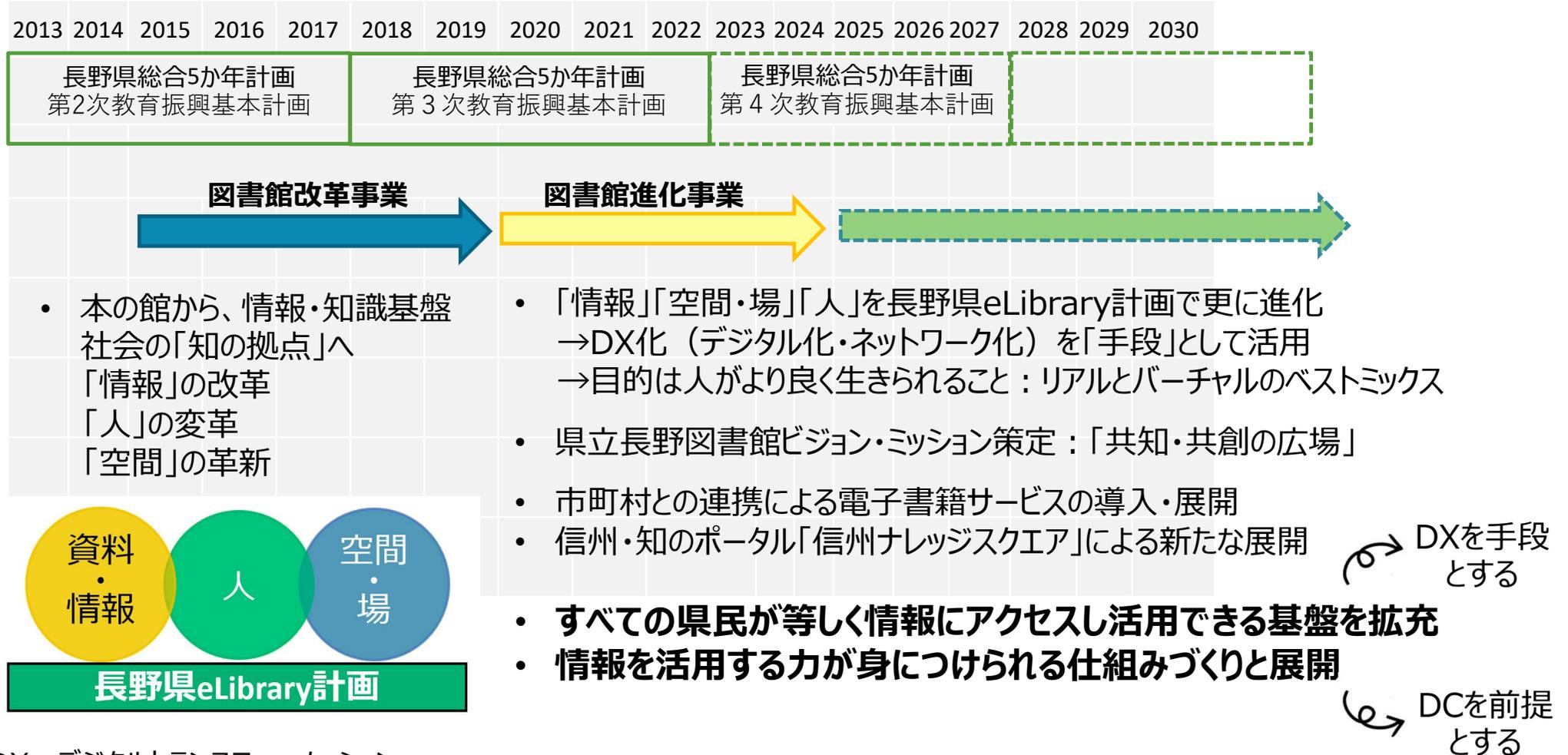
## 2-1. 長野県eLibrary構想（たたき台）



コンテンツの電子化については、デジタルアーカイブの拡充と電子書籍の新規導入を事業の2本柱とする

- 「信州ナレッジスクエア」（地域資源のポータルサイト）  
2020年3月オープン
    - オンラインで使えるサービスのメニューとして紹介
    - MLA機関のデジタルアーカイブのプラットフォームは準備ができていた
    - 現状では、市販の書籍や新聞へのニーズが高い
    - コロナ禍（休館の代替）での即効性はデジタルアーカイブより電子書籍。需要と供給のミスマッチ
    - 「無料の貸本屋」からの脱却を目指す方向性とのジレンマを抱えつつ・・・
  - 「電子書籍」の導入は必須→検討開始
    - R2年7月、教育長レク。市町村との連携を示唆
    - 10月の館長会議で協働事業を提案（プラットフォームとコンテンツという費用分担）
    - 12月、2度目の教育長レク
    - R3年1月、市町村図書館向けアンケート
    - 4月、教育委員会館長・部課長会議で図書館DXに言及
    - 8月、先端技術推進協議会にWG設置
- ※この時点で、1年経過。。。。

# 中期的・長期的な方向性：改革事業を受け継ぎ、さらなる進化を目指す



DX：デジタルトランスフォーメーション：

提唱者のストルターマン氏による定義：「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」こと

# DX（デジタルトランスフォーメーション）？／DC（デジタルシティズンシップ教育）？

- 図書館DX：2020年9月発行『LRG』でDXという概念に初めて触れる  
「伊藤大貴の視点・論点」：ニューノーマルにおけるこれからの図書館－オンラインとオフラインの境界のない世界へ」

## DXの定義

2004年  
E. ストルターマン&A. クルーン  
スウェーデン・ウメラ大学

ICTの浸透が、人々の生活（人生）をあらゆる面でよりよい方向に変化させること

- 哲学的（ソクラテス的）な概念
- 松尾芭蕉の「不易流行」（流行にこそ不易の本質がある）
- SDGs、ウェルビーイング、ウェルネスなどの考え方に共通点

45 INFORMATION TECHNOLOGY AND THE GOOD LIFE

Erik Stolterman  
Anna Croon Fors  
Umeå University

Abstract The ongoing development of information technology creates new and immensely complex environments. Our lifeworld is drastically influenced by these developments. The way information technology is intertwined in our daily life raises new issues concerning the possibility of understanding these new configurations. This paper is about the ways in which IS research can contribute to a deeper understanding of technology and the ongoing transfor-

## DX

私たちの社会や生活を「よりよい方向」へ変化させる

DXを達成するには、単なるICTの普及ではなく「ICTの健康的で、幸福な普及」が必要  
そのためには、教育の力も必要

## DC

デジタル・シティズンシップ教育  
(デジタル時代のよき市民を育む教育)

※ 3つのスライドの典拠：  
芳賀高洋氏（岐阜聖徳学園大学）  
「学校教育DXとデジタル・シティズンシップDC」から引用  
[https://www.city.gifu.lg.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/003/927/2021-5siryou1.pdf](https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/927/2021-5siryou1.pdf)

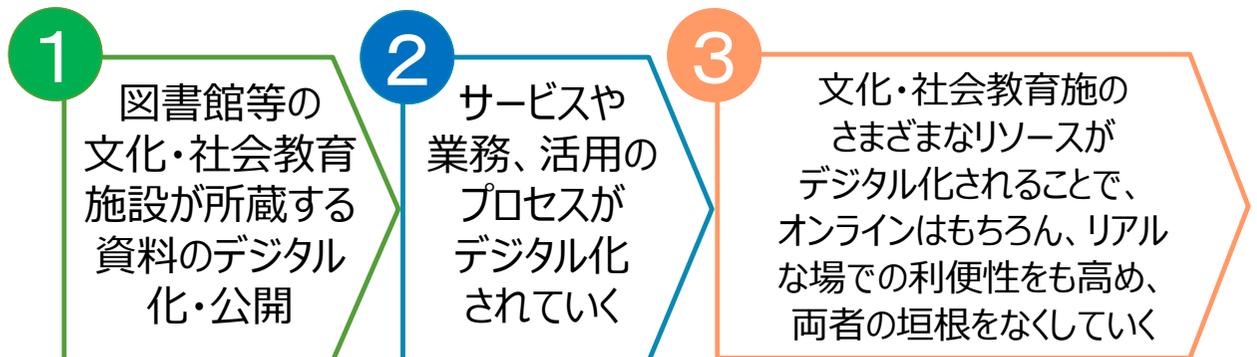
## DXに至る3つの段階

第1段階 アナログの情報を、デジタル情報に変換する

★日本社会、とりわけ、日本の学校教育は長らく、この第1段階で停滞してきた

第2段階 組織や構造のプロセスをデジタル化する

第3段階 社会と私たちの生活がよりよい方向に変化



# 「信州 知の連携フォーラム」で語られたプラットフォーム構想

## 「信州 知の連携フォーラム」とは

### ●平賀前県立長野図書館長による「信州 知のプラットフォーム構想」

- ⇒プラットフォーム（システム的な受け皿）があれば、他の機関（県や市町村のMLA）は、載せるコンテンツ創りに注力できる
- ⇒トータルコストは小さく、豊かな共有財（コモン）が育てられる

※県立図書館は、住民への第一線のサービスを行う市町村図書館を支える役割を持っている  
図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年文部科学省告示第172号）「域内の図書館への支援」

NIIと大学図書館の  
関係に似ている？

県立の図書館、美術館、歴史館（博物館＋文書館）、信州大学図書館の4館による連携の枠組

2016年の  
初回の発表

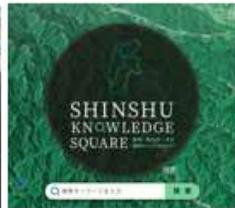
2019年には  
「信州ナレッジ  
スクエア」として  
実現



第1回～  
第2回フォーラム  
2016～2017年度



第3回フォーラム  
(第1回リレーWS)  
2018年度



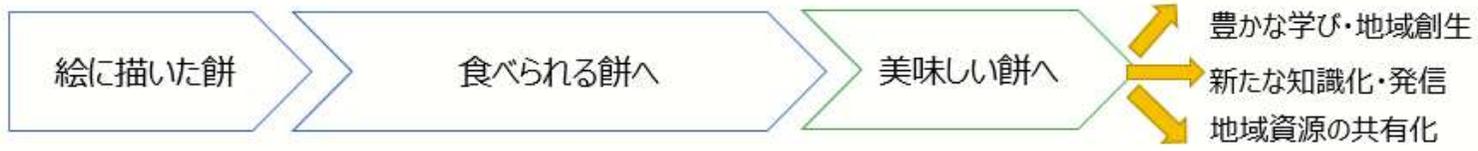
「信州ナレッジ  
スクエア」構築  
2019年度



第4～5回フォーラム(第2～3回リレーWS)  
2020～2021年度



R4年度：  
美術館が  
ワークショップの  
当番（計画中）



※森 いづみ「大学図書館から公共図書館に飛び出して考えたこと～信州 知の連携フォーラムをきっかけに～」大学図書館研究会 関東地域グループ合同例会（2022年2月5日）

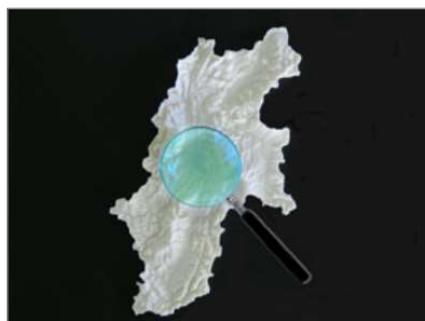
<https://researchmap.jp/izumimi/presentations/36314029>

# 「信州ナレッジスクエア」とは

- 多様な文化を持つ信州各地に蓄積されてきた地域情報資源のポータル。「ナレッジスクエア」とは「知識の広場」



1. **信州サーチ**：信州に関わるデジタルアーカイブ、データベース、ウェブサイトの横断検索
2. **信州デジタルコモンズ**：信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブ
3. **想・IMAZINE・信州**：言葉や文章から連想して、複数のデータベースを検索
4. **eReading Books**：高校の探究学習『わたしたちの信州学』や、小学校の副読本『わたしたちの松川村』のテキストから、新書マップやWikipediaの情報と繋がる。
5. **信州ブックサーチ**：長野県内図書館OPACの横断検索システム→電子書籍2種も対象に



## 信州サーチ

世界から信州を探そう  
県内外のデータベースやアーカイブの中から「信州」に関するところを探し出すことができます。上の検索窓から検索できます。



## 信州デジタルコモンズ

地域の記憶を記録する  
信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブです。



## 想・IMAZINE・信州

連想の広がりを体験しよう  
入力した言葉や文章からキーワードから連想するようにして、思いもしなかった文脈の新たな発見や発想が生まれます。



## eReading Books

自分の根っこを確かめよう  
本文中の単語やキーワードに関する情報を同時表示する「eReadingシステム」で、身近な地域を学ぶ資料を閲覧できます。



## 信州ブックサーチ

信州の図書館から本を探そう  
長野県内にある図書館の蔵書データをつなぎ、探したい本がどこにあるかを素早く見つけられる検索サービスです。

# 「信州ナレッジスクエア」の「信州サーチ」→「信州デジタルcommons」を使ってみよう

SHINSHU KNOWLEDGE SQUARE

生坂村

- 信州サーチ -  
信州の文化資源を  
まとめてさがす

12件見つかりました。

絞り込み

生坂村絵図面

資料コード 03MP0801060150

タイトル 生坂村絵図面

分野  歴史  建造物

場所(市町村名)  生坂村

制作年(西暦) 1885

制作年(和暦) 明治18年

時代  明治

制作者 長野県

制作者(ヨミ) ナガノケン

大きさ 27×69

資料解説

二次利用条件 PUBLIC DOMAIN

コピーライト 長野県立歴史館

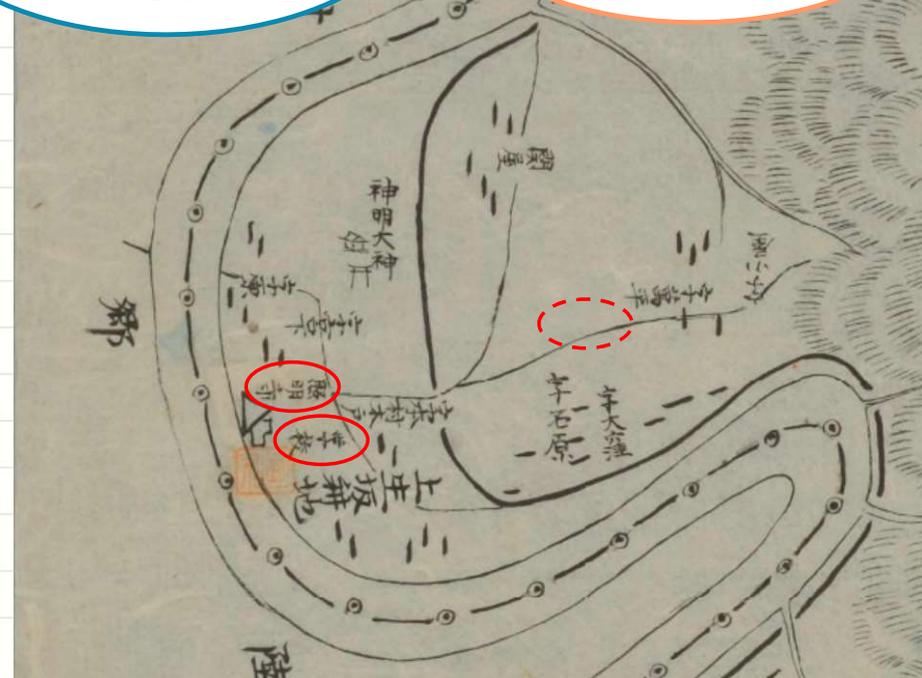
施設名 長野県立歴史館

POWERED BY カ

<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/index.html>

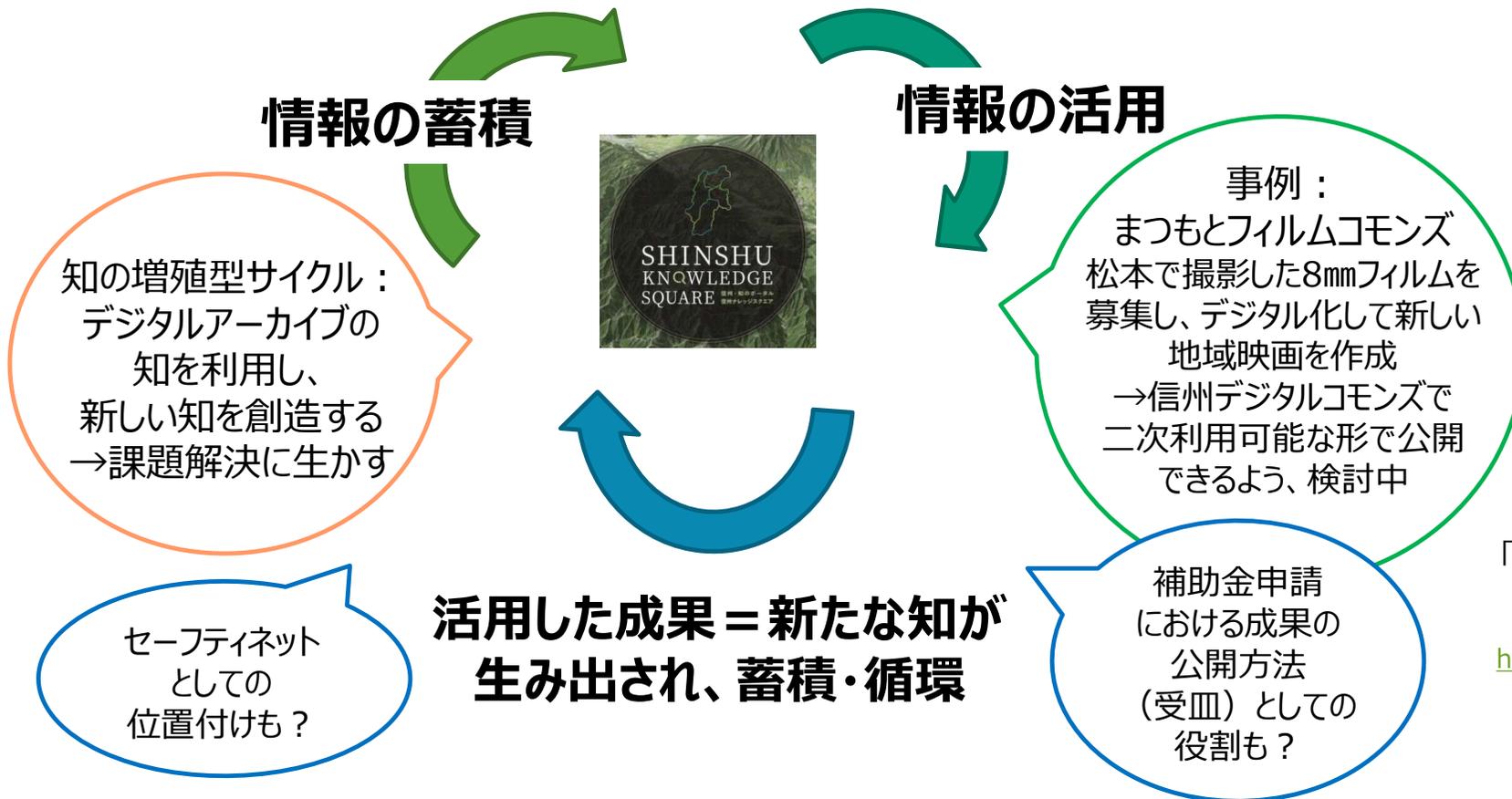
例：信州サーチで  
「生坂村」を検索し、  
「アーカイブ」で絞り込み  
→信州デジタルcommons  
「生坂村絵図面」

パブリックドメイン：  
地域の歴史を学んだり、  
二次利用して  
新しいコンテンツを創る  
材料として活用可能



# 知識循環・知的創造の基盤としての「信州ナレッジスクエア」

- 公的な機関だけではなく、地域の活動から生み出されるコンテンツも受入対象とする  
「信州デジタルコモンズ」運用規程、「信州デジタルコモンズのデータ登録に関する確認事項」を公開  
<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal/guide.html>



「つなぎ役」「二次利用しやすい形での  
情報公開」を評価していただきました

<https://blog.nagano-ken.jp/library/>  
2022/08/26/

# 実践例：松川村図書館長・棟田聖子さんから「eReading」の活用例

- 『わたしたちの松川村』：小学校の郷土学習の副読本。付加価値付きの電子書籍化
- キーワードから、ウィキペディアの該当項目や新書マップにリンク

The screenshot shows a digital library search interface. On the left, there are search filters for '昭和天皇' and '15歳の東京'. The main search results are for '安曇節' (Atsumi Fuyu) and 'いわさきちひろ' (Iwasaki Chihiro). The '安曇節' entry includes a photo of a stone monument and a text snippet. The 'いわさきちひろ' entry includes a portrait photo and a text snippet. A green callout bubble points to the text snippet for '安曇節', and an orange callout bubble points to the text snippet for 'いわさきちひろ'.

**紙のテキストに書かれているのは、固定化された情報 = 重要**  
**しかし、情報の内容を更新するために改訂版を出すのは、なかなかハードルが高い**

**ネットワーク上の信頼できる情報にリンクしていれば、より新しい情報にアクセスすることが可能！**

## 実践例：松川村図書館長・棟田聖子さんから「eReading」の活用例

### ● 「ウィキペディアタウンin安曇野松川村」を開催

- 2018.03.03
- 「大和田神社」、「安曇野ちひろ公園」、「松川村図書館」（以上、新規作成）  
「安曇節」（加筆編集）の4項目を編集

<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/events/7185.html>

<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/other/7337.html/>



**知が循環する事例：**  
地域を学ぶテキストから、  
まち歩きをして現地を訪れたり、  
根拠となる文献を調べて  
編集した内容に  
「eReading」からリンク

※詳細 棟田聖子氏（松川村図書館）  
「電子図書館、どう育てる？」 令和4年度第1回信州発・これからの図書館フォーラム  
Youtube動画 1：46：36～  
<https://www.youtube.com/watch?v=AArREG-uH9k&t=7132s>

# なぜ、図書館が「知識循環・知的創造」の基盤を担うのか？

## ● 公立図書館の任務と目標

(日本図書館協会 1989年公表、2004年改訂)

- ✓ 公立図書館は、乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育に資するとともに、住民が情報入手し、芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場である。

すべての年代の  
人々の「知る・学ぶ・  
創造する」場

インプットだけではなく  
アウトプットまでが  
守備範囲

賑わい創出、  
地域の課題解決など、  
図書館という公共施設の  
機能拡張への期待へと  
つながる

情報の蓄積  
と活用の循環によって  
「地域文化」そのものの  
「創造」にかかわる

※ 自治体が設置する「公立図書館」と、法人等が設置する「私立図書館」を総称して「公共図書館」と呼ぶ。

# 改めて：長野県の図書館事情（山岳が多く、多様な文化圏を誇る）

- 人口 **2,023,201人**(2022.7.1現在)
- 自治体数 **77** (市：19 町：23 村：35)
- 公共図書館数 **120** 館 (本館71 分館49)
- 条例に基づく図書館が未設置の自治体**21** (町：6 村：15)  
**(9月23日 大桑村図書館オープン！)**

未設置率 **27%**

未設置自治体総人口／県総人口 = 4%

- 人口1人当蔵書冊数（紙媒体の本）  
(2019年度末・県立長野図書館除く)

県内10広域の平均値：  
0.7冊～10.1冊（地域によるバラつきが大きい）

佐久地域：	10.1	木曾地域：	0.7
上田地域：	5.2	松本地域：	4.5
諏訪地域：	7.0	北アルプス地域：	7.8
上伊那地域：	6.9	長野地域：	3.3
南信州地域：	9.3	北信地域：	3.4

※長野地区：県立長野図書館を除いた値

情報の形も、コミュニケーションのあり方も変わってきている

これまでどおりで良いのかな？

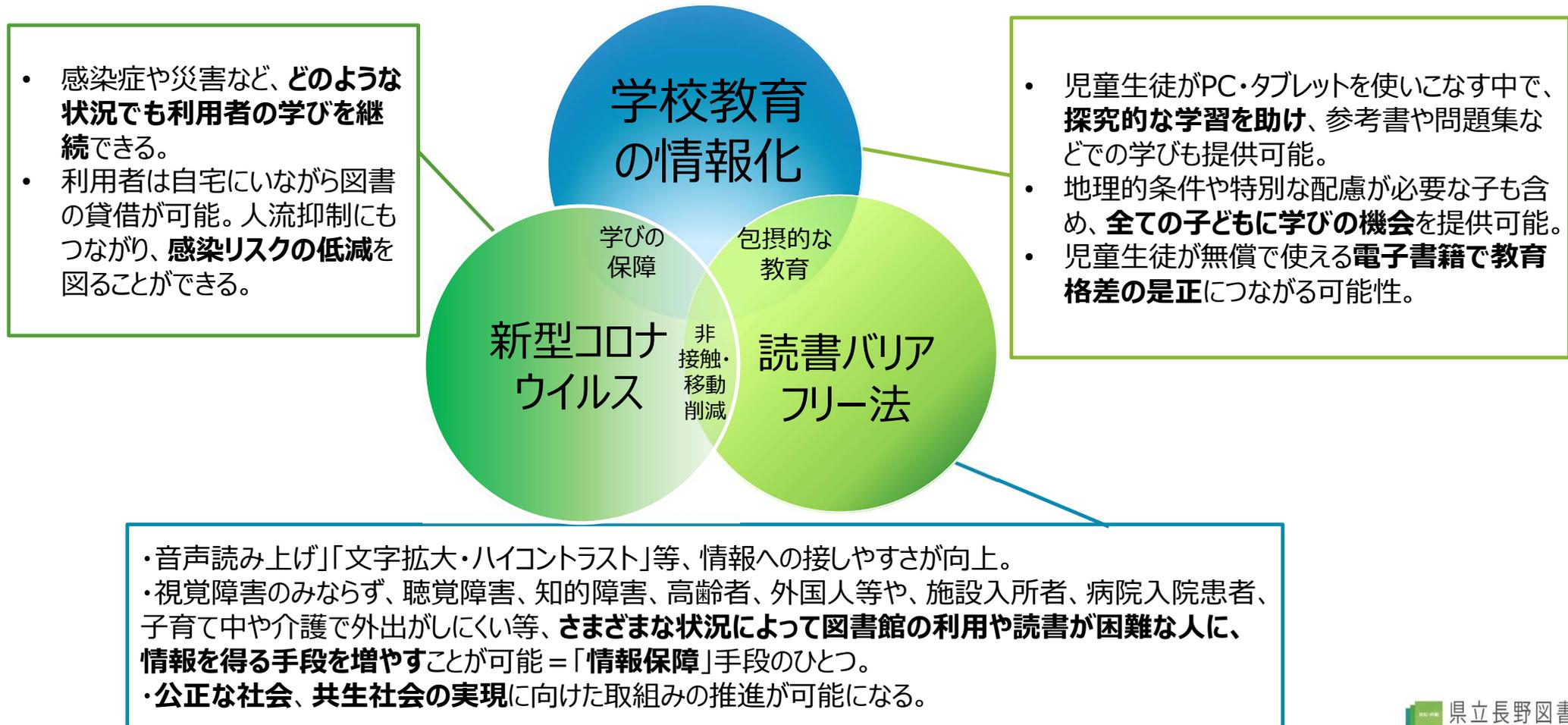


各市町村、多様な文化・地域の特色と横のつながりを活かす施策が必要

※東信地区、南信地区、中信地区、北信地区の4つのエリア10広域に区分される。

# 「電子書籍」サービスの導入で期待されること

## 「電子書籍」サービスの導入→3つの社会課題の解決の糸口



# 資料・情報を届ける：県内公立図書館現場における電子書籍に対する課題認識<sup>15</sup>

## 「電子図書館」導入は単独では難しいという声が多く、自治体間連携に期待あり

### 「電子書籍貸出サービス」に関するアンケート結果

※令和3年1月実施、長野県内の公立図書館56が対象。回答率100%

#### ● 導入検討状況：

- ✓ 導入済：1館、検討中：11館、未検討：40館、その他：4
- ✓ 「単独での導入が望ましい」としたのは3館

#### ● 導入に向けての課題：

- ✓ 「予算の確保」約9割、「運用方法に関する懸念」約8割、「コンテンツに関する懸念」が約7割
- ✓ 「利用環境」や、そもそも「住民ニーズ」があるのか、という懸念も5割超

#### ● 望ましい導入の方法：

- ✓ 「コンテンツの選定、利用方法の検討、利用支援のあり方等について、市町村を越えた連携ができること」が7割
- ✓ 「試行的にサービスが行えること」や「複数の市町村が連携して導入できること」が5割超

#### ● 市町村と県による協働事業として事業化を目指す根拠に

#### 【各種コメント】

- ・具体的ではないが、導入の意向は持っている。
- ・村議会一般質問にて議員より質問があった。
- ・資料デモや業者説明等、職員の研修を開催したものの導入には壁が多すぎる。
- ・図書館が浸水被害に遭い、必要性を痛感している。

# 自治体を越えた図書館間連携

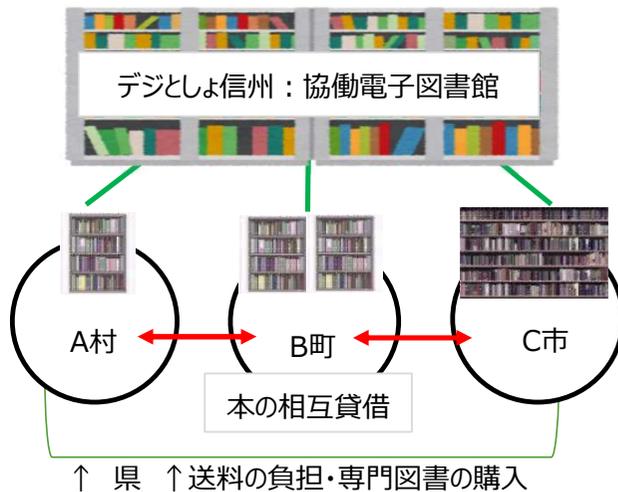
## 従来からの協力体制の延長線上に、新しい図書館間連携体制を築く

- 共通の課題を解決する方策として、協働電子図書館（仮称）によって、さまざまな「情報格差」の解消を図る。
- 電子化で生じる「情報格差」も起こり得るため、広報や利用支援も協働で取り組む。
- 「誰一人取り残さない」「持続可能な地域・社会」を実現する方策として関係各所の連携を視野に入れる。

### 解決策

ハイブリッド図書館の場合

- 「電子書籍サービス」を全市町村と県が協働して提供  
= 住民サービスの充実



#### ■ メリット

- 蔵書の不足分の増強。付加価値のあるコンテンツ。
- 紙と電子との組み合わせでスペース問題が軽減。
- 図書館が未設置でも電子書籍が使えることで学びの環境が強化。
- 図書館の利用をしていなかった潜在的な利用者層への呼び水となる（読者層が広がる。図書館利用の契機になる）。

#### ■ 期待される効果

- いつでもどこでも情報アクセス
- 情報格差の解消へ一歩前進  
→ 学びの多様化・学び手の増加  
→ 各自治体の活力増進に期待！

目的や好みに応じて  
使いたい媒体を選択



来館でも非来館でも  
選択の幅を拡げる

図書館登録者は  
住民の3割→  
7割にリーチしたい

# 協働事業の構築検討体制 = DX推進の協議会の下に研究WG設置

長野県先端技術活用推進協議会 (DX推進課所管)

長野県図書館協会

公共図書館部会

市町村と県による協働電子図書館(仮称)  
協働構築研究WG

連携協力

これからの公共図書館研究会

<b>WGリーダー</b> 会議の招集/ WG運営に関することなど
<b>県立長野図書館長</b>
<b>WGサブリーダー</b> 市町村のとりまとめ/ R4チーム運営に関することなど
<b>坂城町立図書館長</b>
<b>WGメンバー</b> 情報提供、意見調整/ 事業参加検討/ 提案・意見/ 資料作成など
<b>76団体 ※R4,2/8現在</b> <b>19市23町30村 + 2広域連合 + 自治振興組合 + 県</b>

- R3年8月キックオフ  
発足当初の参加団体：36
- 作業チームミーティング多数  
(仕様策定、利用登録、  
選書、利用支援・広報)
- 自治体向説明会開催
- 各地区図書館関係会議
- 教育長会議、市長会、町村会、  
自治振興組合、市町村振興協  
会等への説明  
(宝くじ助成金へ繋がる)
- 公共図書館部会から県等への  
要望
- 各自治体での予算確保の努力

デジタル活用

資料活用・レファレンス

図書館サービス計画

学びのプログラム・学校連携

公共図書館を  
設置していない自治体にも  
参画してもらえる仕組み

R4チームミーティング (TM)

R4作業チーム (作)

総括チーム      利用登録方法チーム

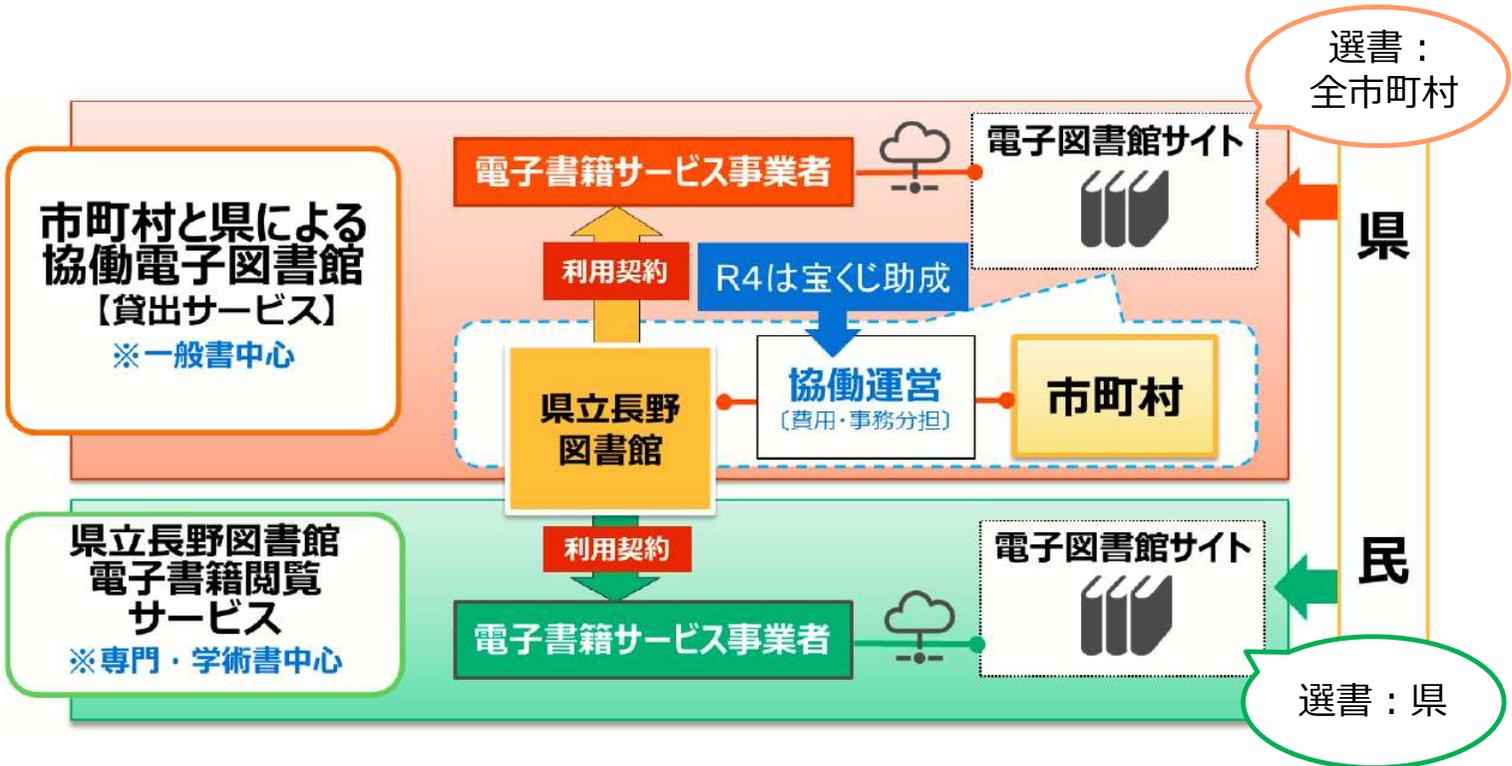
選書方法チーム      仕様チーム

利用者支援・広報チーム

# 2つの電子書籍サービス：市町村と県、それぞれの役割を果たすための二層構造

- 「一般書の電子書籍貸出サービス」として、株式会社メディアドゥ「OverDrive」
- 「専門書の電子書籍閲覧サービス」として、株式会社紀伊國屋書店「KinoDen」

プロポーザルを  
実施



**長野県 令和4年度  
当初予算案における主要施策**

**暮らし・行政のDXの推進**  
デジタル技術を活用した利便性の高い地域づくりを実現するため、暮らしや行政のデジタル化を推進

**生活の場でのDXの推進**  
電子図書館サービスの提供  
3,857万8千円 ⇒ 教育委員会

(新)市町村と協働で電子書籍貸出サービスを提供するなど、自由に本にアクセスできる環境を整備

- ※県立図書館の役割 (参考：図書館の設置及び運営上の望ましい基準)
- 第一線の住民サービスを行う市町村を支援つつ、自ら住民サービスを実施
  - 調査専門図書館としての役割
  - 郷土資料を網羅的に収集保存提供する役割

# 市町村と県による協働電子図書館（「デジとしよ信州」）



## ● 協働の役割分担：

- ✓ 基盤的経費（初期設定費／プラットフォーム費）：県立図書館で契約・維持
- ✓ コンテンツ費：77市町村の負担金（初年次のみ県・企業局こども支援経費からも拠出）

- 当初コンテンツ数：  
（青空文庫11,000点含む）18,000点以上→追加購入
- R4は市町村振興協会の宝くじ助成金をコンテンツ費として支給いただく（R4は負担金なし→R5から集める）
- 長野県内に在住・通勤・通学している人は、誰でも、いつでも、どこからでも利用可能
- 夏のDigi田甲子園：  
長野県代表の一つとして出場  
[PR動画](#)（1分）  
⇒実装部門5位  
⇒デジタル庁「デジタルの日」  
広報ポスターに起用  
⇒早稲田大学マニフェスト  
研究所「地方創生カレッジ」  
からの取材



## 協働事業のコンセプト（プロポーザル説明資料より）

- 市町村図書館と県立図書館との従来からの役割分担を活かしながら、全県民を対象としたサービスを可能にするための枠組みです。
- 全県的に、より多くの豊富なコンテンツを整備し、県民にとって身近なサービス拠点を作ることが重要です。このため、全ての市町村（条例による図書館未設置自治体を含む）と県による事業として構築しています。
- サービス運用にかかる個々の自治体の負担を軽減し、ノウハウを共有できることも重要です。例えば、利用申請のしかたや、広報のしかたなどはひな形を協働で作成して、各自治体で展開します。
- 各自治体が、これまでの図書館サービスと電子図書館を組み合わせ、主体的かつ全体的な視点で取り組める枠組みであることも、大切です。
- 5年間の事業（試行2年、本運用3年）で実績を分析・評価し、その後のサービスのあり方について検討・見直しを行います。

# R4年4月～：運営委員会体制（全体会議・総括会議・部会＋チーム）



「運営委員会要領」第3条に定める  
運営委員の1/2の出席により成立  
**重要事項の決定機関**

「運営委員会要領」第4条に定める

運営委員長、副委員長、各部会長、  
参加団体及び長野県の推薦する者

**総括会議**  
議長：運営委員会副委員長  
**実務面の決定機関**  
10名程度

**読書バリアフリー**  
チーム員：3名

**学校連携**  
チーム員：6名

**オリジナルコンテンツ**  
チーム員：4名

「運営委員会要領」第5条に定める

**利用登録部会**  
部会員：6名

**選書部会**  
部会員：15名

**利用者支援・  
広報部会**  
部会員：11名

**システム部会**  
部会員：5名

利用者ID、利用登録にかかる事項  
「運営規程」第6条に定める  
「利用に関する要綱」  
（「運用マニュアル」）  
上記にかかる職員研修

コンテンツにかかる事項  
「運営規程」第7条に定める  
「コンテンツ選書基本方針」  
「コンテンツ選書基準」  
（「選書の手順」）  
上記にかかる職員研修

「運営規程」第8条に定める  
利用支援にかかる事項  
「運営規程」第9条に定める  
広報にかかる事項  
上記にかかる職員研修

「運営規程」第10条に定める  
システム運用の助言にかかる事項  
各部会から1名は必ず参加する

「運営委員会要領」を改正（2022/11）  
→部会を横断する課題解決チームの設置を第5条に定める

## 協働電子図書館の主なターゲット（「コンテンツ選書の手順（コンテンツ内容）」より）

- 利用対象は全県民
- 事業目的にそって、特に以下の利用対象に資することに留意する
  - ✓ GIGA スクール構想等で、電子書籍を読むタブレット等を使いやすい環境にある児童および青少年  
(IT リテラシーが高く、電子書籍を利用する障壁が低い傾向がある。  
ただし、紙メディアや肉声の良さも考慮しながら、バランスよく活用していきたい)
  - ✓ リアルな図書館に足を運ぶことが困難な高齢者や、読書に関わる障害がある方  
(文字の拡大機能などがある電子書籍を、自宅などから居ながらにして利用できることで、読書環境が改善されることが期待できる)
  - ✓ 開館時間に利用することが困難な子育て世代やビジネスパーソン  
(24 時間 365 日、来館することなく使える電子書籍によって、図書館の利用が生活スタイルに馴染まなかった層の読書環境が改善されることが期待できる)

## 「デジとしよ信州」の特集棚 →オープニングセレモニー以降、旬の話題を次々に…

- 海こそなけれ、もの（山）さわに

信州は山岳県。山に親しみ、山の恩恵に感謝する山の日と共に、バラエティ豊かな山の本を紹介します。例えば…週末に向けて、「山ご飯」の本と「ルート案内」の本を借りる、なんてどうでしょうか。登山に何冊も本を持って行くのは大変ですが、電子書籍なら、いつでもスマホから呼び出せます。

- 「ビジネスに効くスキル特集」

仕事の手法も、効率も、働き方も、みんなが気になっている分野を選びました。

- 「子育て応援します！」

子どもが小さくて図書館へ行く余裕がなかったり、買い物中など外出先で調べられる便利な本をあつめました。

- 歴史や科学を学べる話題の「漫画」も、けっこう取り揃えています。

- 「いまこそ読みたい文芸書」

名作から、最近のものまでいろいろありますが、最近、小さい文字が読みづらいという方も、電子書籍のメリットを体感していただけたと思います。

お一人お一人の「知りたい」「読みたい」「学びたい」に寄り添い、これまで、図書館を使ったことがなかった人にも、興味を持ってもらえるような、「デジとしよ信州」。ぜひ、ご期待ください！

## 充実した研修機会の設定①：選書部会

### 各市町村の選書担当者向け 選書の手順とシステム操作の研修

#### ◆ 個別IDの自治体毎通知

取り扱い説明、選書についての研修の案内

- ・全ての自治体に選書権あり
- ・選定は選書部会
- ・決定は選書部会長

#### ◆ オンライン研修 ※要PC用意

対象：各図書館において選書を行う職員

日程：6/1（水）1：00～3：00 61アクセス（32自治体の参加確認）

内容：選書管理サイト「Marketplace」を使った選書作業の手順

#### ◆ 録画・手順書の作成・掲載

対象：県内公共図書館および公民館図書室向け専用サイト内

日程：オンライン研修直後（問い合わせ窓口の明示）

選書部会長：  
棟田館長さんから  
一言お願いします！

# アウトプット、アウトカムを見える化する

## ● 協働電子図書館の利用者IDの仕様と目的：

- ✓ 識別番号（市町村：Mor県：P）1桁 + 市区町村コード（3桁） + 利用者生年（西暦4桁） + 市町村・県の図書館利用カード番号（桁数任意）
  - 市町村ごとの住民の利用実態について、統計が取れる  
⇒ニーズの把握ができる
  - 年代・世代ごとの利用動向が見えてくる  
⇒プロモーションをするターゲット  
⇒選書方針への参考になる
  - リアル図書館の利用実態との比較（新たな顧客層の開拓状況）や、相乗効果が確認できる  
⇒県の電子申請を用いて電子図書館を利用している住民数も市町村に報告

### 留意事項

- 「図書館の自由に関する宣言」の趣旨に則り、個人IDと電子書籍貸出情報の紐づけは行いません（データを持たない）
- ビッグデータとして統計処理を行いサービス向上に役立てる

## ● 投資効率の向上への期待

- ✓ 住民の図書館利用率、蔵書（電子書籍）の貸出回転率の向上

## ● 顧客満足度向上への期待

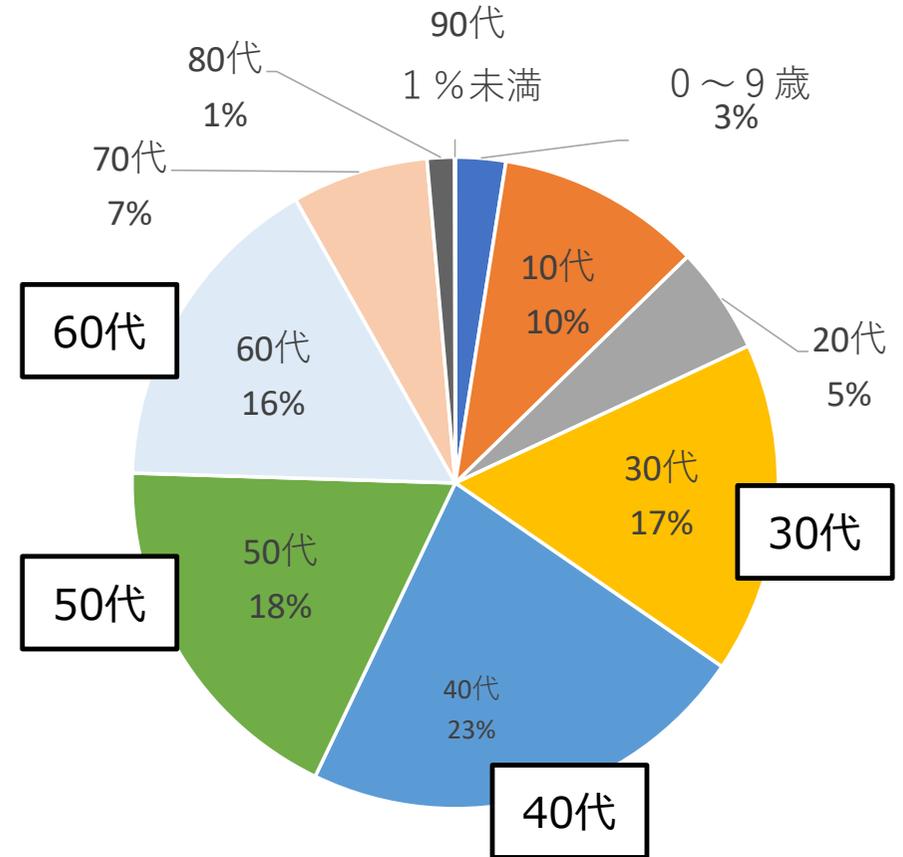
- ✓ 地域の活性化、課題解決力の向上、図書館の存在意義、予算要求の根拠へ

## 「デジとしよ信州」の利用実績（11月5日現在）

- **利用登録数**：8,324人
- **貸出数**：26,889冊
  - ✓ スタート当初と比べてやや落ち着くもののコンスタントに増加
- **貸出者年代**：
  - ✓ 貸出者の年代は全世代に及ぶが、40代が最も多く、全体の23%を占める。
  - ✓ 50代：18%、30代：17%、60代：16%と続く。
  - ✓ 一般的に公共図書館の利用は、子どもとシニアによく利用されるM字カーブを描くため、従来は利用が少なかった年代にリーチできていると見ることができる。
  - ✓ 10代が約10%、20代が約5%と少ないが、10代は学校との連携によって、20代は大学との連携によって、今後利用が伸びることが期待される。

- 無精者で図書館に行く習慣も本を持ち歩く習慣もなかったが、隙間時間が読書タイムとなり、読書量が一気に増加。
- 普段読まないジャンルにも気軽に挑めている。
- 身近なサポート役として、地域の図書館に期待。

（「市民タイムズ」2022.10.2より）



貸出者の年代

## 充実した研修機会の設定②：システム部会（DX推進課の協力も得ながら）

### ID管理システム、利用者向けシステムの研修

#### ◆集合型研修

対象：各図書館で協働電子図書館の運営を中心的に担う職員

日程：7/6（水）以降。合計6日間。 ※各回定員20名

場所：県内6箇所各1日ずつ。1日あたり2回ずつ開催。

内容：利用者画面[Lightning]（座学・実機操作・質疑）、ID管理システム（座学・実機演習・質疑）

オンラインだけではなく  
なるべく各地域で開催  
= 顔の見える関係性

#### ◆オンライン研修 ※要PC用意

対象：各図書館において利用者管理、利用者対応を行う職員

日程：6/21（月）14:00～15:30 @Zoom ※録画予定

内容：Lightning（座学・実機操作・質疑）、ID管理システム（座学・実機演習・質疑）

#### ◆録画視聴研修 ※要動画視聴用端末用意

対象：利用者対応を行う職員

日程：6/24（金）以降。随時視聴可能

内容：Lightning（座学・デモ環境を使用した自習）、ID管理システム（座学・デモ環境を使用した自習）

視聴方法：オンライン研修を録画した動画を、オンラインストレージ経由で取得し視聴する。

### 統計分析 研修【基礎編】

11/24（木）、11/30（水） システムからのデータ取り込み、分析操作（マクロファイルの実行）、分析方法（ファイルの見方 / 使い方）

# 「デジとしよ信州」今後の重点取組事項：3つのチームを立ち上げて取組中

- **電子書籍サービス（インターフェイス、コンテンツ内容）の充実・予算の確保：**
  - ビジネスモデルとコレクション構築のバランス、紙と電子のバランス（出版点数との兼ね合い）
- **読書バリアフリー：**
  - 視覚障がい者向け電子図書館サービス「アクセシブルライブラリー」の早期導入や、福祉関係団体と連携して障がい者向けサービスの総合的な展開の検討
  - 情報リテラシー向上
- **学校教育との連携：**
  - 教育現場や家庭等の方針に配慮しつつ、希望する自治体・学校と連携
  - 教材利用等、授業や読書推進活動、学校図書館との連携などの方策を検討
- **地域資料の充実：**
  - 学校の副読本、自治体作成のオリジナルコンテンツを電子書籍化、デジタルアーカイブ化
  - 地域出版物の有料コンテンツ化・アーカイブ化
- 著作権者や本に関わる関連業界（出版・印刷・書店・取次）とのWin-Winな関係作り

高森町の事例や、北海道の事例から、市販の電子書籍を提供／消費するだけではないあり方のヒントを得る

# 信州ブックサーチの活用による、蔵書 + 電子書籍の検索・発見の仕組み

## 県内公共図書館のOPAC, 2つの電子書籍を一括で検索できる

県立長野図書館  
Nagano Prefectural Library

HOME 県立長野図書館のいま 本・情報をさがす 県立長野図書館をつかう つながる信州の図書館

電子書籍

Shinshu Book Search  
長野県内図書館横断検索サービス「信州ブックサーチ」

世界の郷土料理事典

デジタル信州

世界の郷土料理事典：全世界各国・300地域 料理の作り方を通して知る歴史、文化、宗教の食規定

電子書籍

信州ブックサーチ (長野県内図書館横断検索)

世界の郷土料理事典

検索

地域で絞り込み	タイトル	著者名	出版者	出版年	ISBN	所蔵館
すべて	世界の郷土料理事典：全世界各国・300地域 料理の作り方を通して知る歴史、文化、宗教の食規定	青木ゆり子	誠文堂新光社	2020	9784416620175	X
22館所蔵						<input type="checkbox"/> 県立長野 <input type="checkbox"/> 松本市 <input type="checkbox"/> 塩尻市 <input type="checkbox"/> 安曇野市 <input type="checkbox"/> 大町市 <input type="checkbox"/> 池田町 <input type="checkbox"/> 白馬村 <input type="checkbox"/> 松川村 <input type="checkbox"/> 木祖村 <input type="checkbox"/> 朝日村 <input type="checkbox"/> 長野市 <input type="checkbox"/> 須坂市 <input type="checkbox"/> 千曲市 <input type="checkbox"/> 諏訪地域 <input type="checkbox"/> 駒ヶ根市 <input type="checkbox"/> 南信州地域 <input type="checkbox"/> 佐久市 <input type="checkbox"/> 御代田町 <input type="checkbox"/> 上田地域 <input checked="" type="checkbox"/> デジとしよ信州
	世界の郷土料理事典 全世界各国・300地域料理の作	青木 ゆり子/著	誠文堂新光社	2020.06		
	世界の郷土料理事典：全世界各国・300地域料理の	青木 ゆり子				

県内の書店情報に繋がられないか検討中

世界の郷土料理事典  
全世界各国・300地域 料理の作り方を通して知る歴史、文化、宗教の食規定

青木 ゆり子  
出版者: 誠文堂新光社  
出版年月: 2020/06

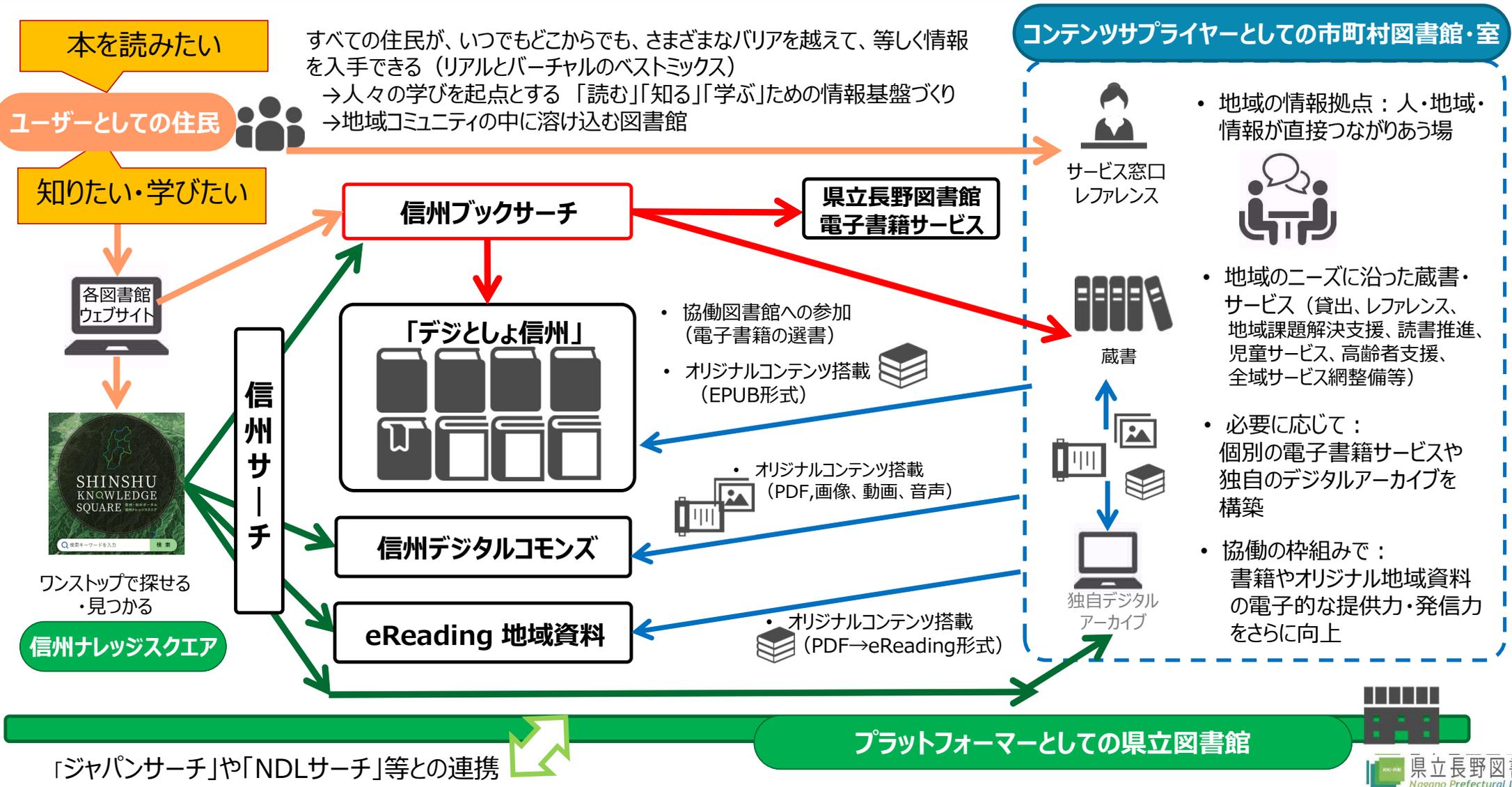
ISBN: 9784416620175  
NDC: 596  
ProductID: K90067019  
形式: EPUB Fkex3-Layout

同時アクセス可能 1人

印刷/ダウンロード

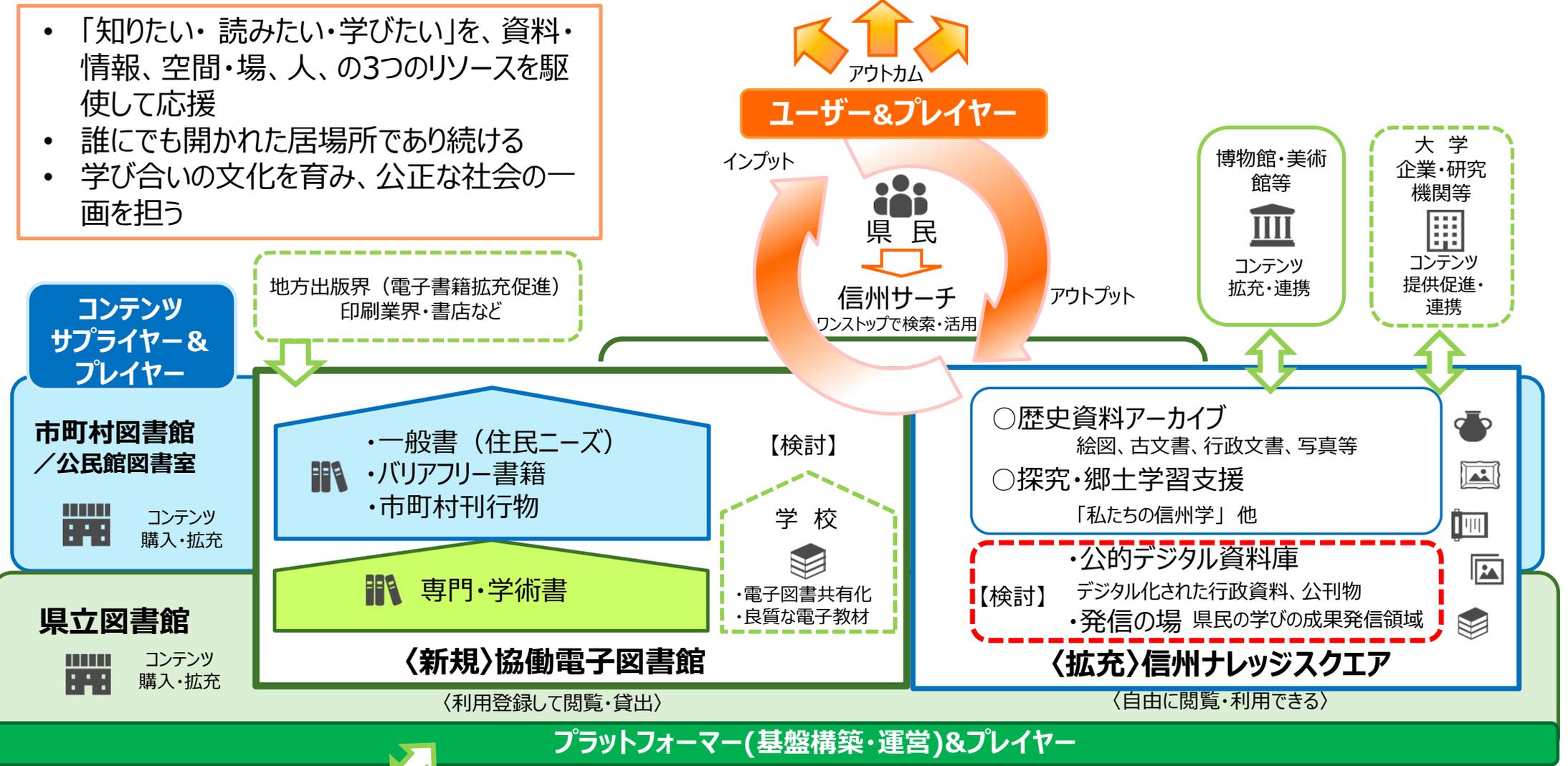
本文読み上げ

# 信州サーチによるカテゴリーを越えた検索・発見の仕組 + コンテンツサプライの仕組



# 全てのステークホルダーが、プレイヤーとしての役割も持つ

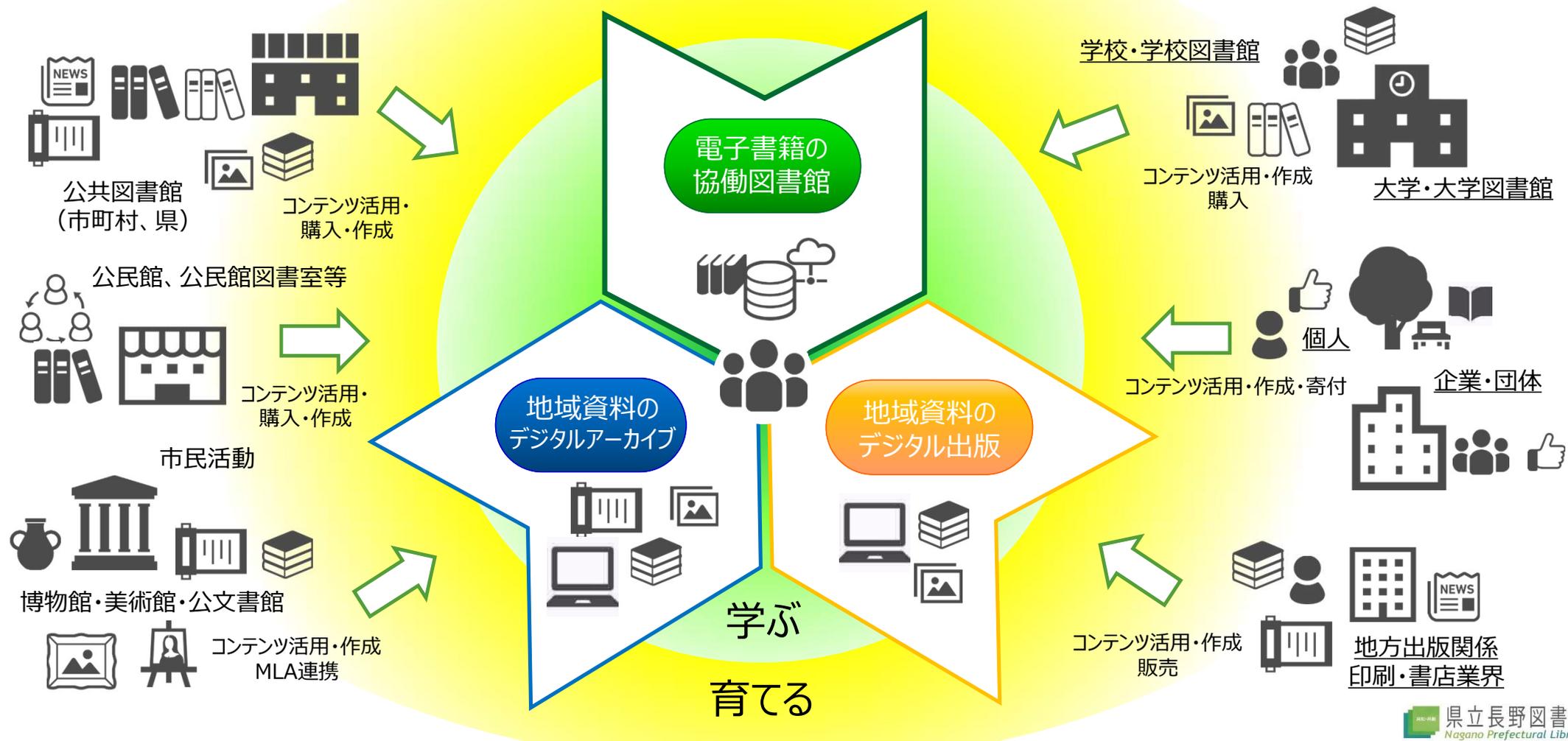
- 「知りたい・読みたい・学びたい」を、資料・情報、空間・場、人、の3つのリソースを駆使して応援
- 誰にでも開かれた居場所であり続ける
- 学び合いの文化を育み、公正な社会の一画を担う



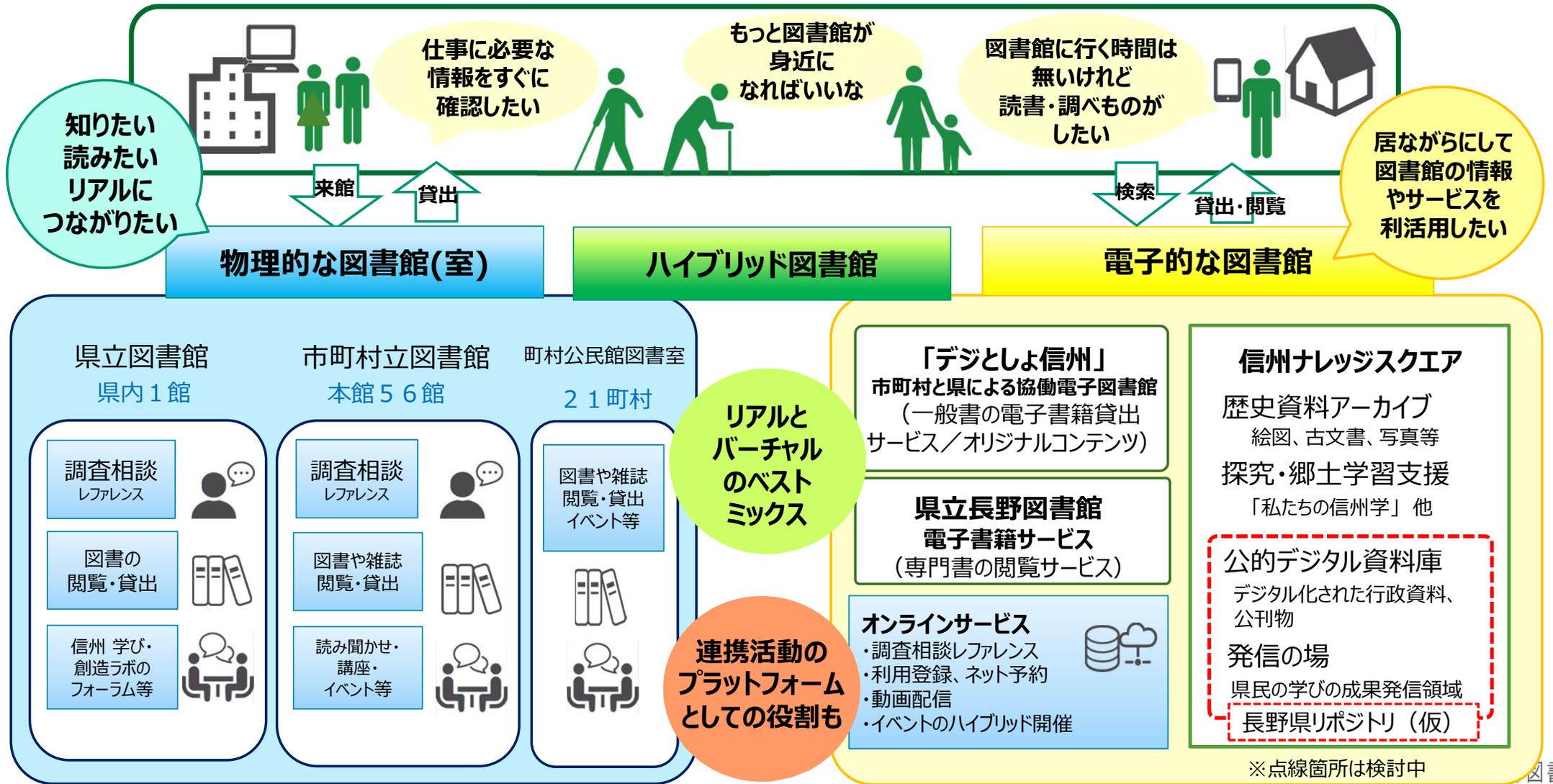
「ジャパンサーチ」や「NDLサーチ」等との連携

# さらに大きな枠組みで共有していきたいビジョン（検討中）

みんなで学ぶ・みんなで育てる「all信州電子図書館」⇒ 地域文化の創造・地方創生



# 情報システム基盤のプラットフォーム+連携活動のプラットフォームでありたい 33



# プラットフォームであり続けるために

- 確実な持続性と堅固なシステム基盤
  - セーフティネットとしての位置づけ、コンテンツの相互保全、継承
    - ※ 予算を獲得し続けること・基盤整備は県で
- 人々の活動成果や暮らしの知恵が蓄積され続ける文化
  - MLAの文化資産
  - 公民館や学校活動で生み出されるもの
  - 日々の暮らしの中で生み出されるもの
    - ※ コンテンツの作成費・活動の経費はそれぞれで
- 国立国会図書館や、さまざまな機関、活動との連携
  - システム基盤、コンテンツ作成、人材、活用の場

地域の情報拠点として  
すべての取組に共通すること：  
「使ってもらう」だけではなく  
**「共に知り、共に創る」**観点を持つ  
+ **対話とプロセスを重視**する

いついかなる時も、人々の  
「知る」「学ぶ」を支えるために。  
**「地域社会」の過去現在を  
未来につなぐ**

※ *If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.*  
早く行きたければ、ひとりで行け。遠くまで行きたければ、みんなで行け  
…by DX推進課